

＜スワルスキーカブリダニ放飼後の殺虫剤について＞ 下記薬剤を推奨します。ご利用の作物で登録がある剤を利用してください

対象病害虫	影響の少ない殺虫剤 (※ 2. をご参照ください)	若干の影響あり (放飼数週間後、カブリダニの数が葉当たり 1 頭を 超えてから使用する。連用しない)
アザミウマ類	マイコータル、ボタニガード水和剤、プレオ、マッチ、ベストガード アルバリン/スタークル、カウンター、ベネビア、エクシレル ファインセーブ、ヨーバル、レターデン	アクタラ、アドマイヤー、カスケード、ダントツ、コルト キラップ、バリアード、ボタニガードES
コナジラミ類	マイコータル、ボタニガード水和剤、ウララ、アルバリン/スタークル チェス、ファインセーブ、ベストガード、ベネビア、ヨーバル	コルト、バリアード、ボタニガードES
アブラムシ類	ボタニガード水和剤、チェス、ウララ、アルバリン/スタークル ベストガード、ベネビア、ヨーバル	コルト、バリアード、ボタニガードES
ハダニ類	カネマイト、スターマイト、ダニオーテ、ダニコング、ダニサラバ、 ニッソラン	マイトコーネ、ボタニガードES 気門封鎖剤 (スポット散布)
ホコリダニ類	スターマイト、カネマイト、レターデン	アブロード、ボタニガードES
ミカンサビダニ	カネマイト、ファインセーブ、マッチ、レターデン	マイトコーネ、リーズン、カスケード
ハモグリバエ類	プレバソン、プレオ、マッチ、トリガード、カウンター、ベネビア、ヨーバル	カスケード
ヨトウ類 タバコガ類	プレバソン、プレオ、マッチ、フェニックス、ノーモルト、サムコル ファルコン、マトリック、ロムダン、カウンター、ベネビア、アクセル、 エクシレル、ヨーバル、トルネードエース、BT剤(ジャックポットなど)	カスケード
カイガラムシ類	スタークル/アルバリン、ベストガード	アブロード、アクタラ、アドマイヤー、コルト、ダントツ
カメムシ	スタークル/アルバリン、ベストガード	アクタラ、アドマイヤー、キラップ、ダントツ

- ※ 1. 上記薬剤以外は天敵に影響が大きい可能性があります。特に合成ピレスロイド剤や有機リン剤、カーバメート剤、ネライストキシン系薬剤、ピラゾール系薬剤、モベント、グレーシアなどは長期間影響が残るので、天敵の放飼前にこれらの剤を散布していた場合はスワルスキーカブリダニ (以下、スワルスキー) がうまく定着しないことがあります。
- ※ 2. スワルスキーを効果的に使用するには、放飼前に害虫を徹底防除しておく必要があります。

＜スワルスキー放飼後に使用を注意する殺菌剤について＞

- ゲッター、トップジンM、ベンレート、ニマイパー、モレスタン、ジマンダイセン、ペンコゼブ、テーク、リドミルゴールドMZ、カーゼートPZ、フェスティバルM、ダイアメリットDF、ポリオキシン、ポリペリン、カンパネラ、ベネセット、ゾーベックエニベルなどの利用は避けてください。
- 硫黄のくん煙は1回当り2～3時間以内で行なってください。



- スワルスキーカブリダニは、トマトではうまく定着できないので、使用は控えてください。
- ピーマンなどでは、餌となる害虫が少ないときに花数が減るとスワルスキーが減少することがあります。花数が増えれば花粉を餌にして再び増えてきますが、できるだけ花数を維持するように管理してください。
- 摘葉で取り除いた葉などにスワルスキーが残っていることがありますが、病害虫管理の面からもハウス外に捨てて構いません。但し、放飼後2～3週間以内に摘葉した場合は、除去した茎葉を株元に設置し、しばらく経ってから捨ててください。
- 葉面散布剤の使用は可能ですが、ニームオイルなど殺虫効果をうたった商品の利用は避けてください
- 展着剤についてはクミテン、グラミンなどの一般展着剤を利用し、機能性展着剤 (スカッシュ、まくびか、ミックスパワー、ニーズ、ブレイクスルーなど) の利用は避けてください。汚れ防止目的ではドライバーが利用可能です。
- 施設かんきつのミカンハダニ防除では、無加温栽培での厳寒期の導入は避けてください。
- スワルスキーは葉裏の湿度が高い環境を好みます。ハウス全体の湿度を極端に上げる必要はありませんが、葉がしおれるほど乾燥しているとうまく増殖できないことがあります。こまめな灌水を行って葉裏の蒸散を促してください。

スワルスキーと相性の良い微生物農薬 ～コナジラミ類、アザミウマ類に感染するカビの仲間～



「マイコータル」 ・ 「ボタニガード水和剤」

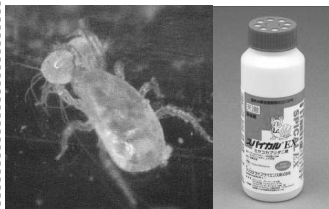
- スワルスキーにはほとんど影響が無く、施設栽培の野菜類で使用可能 (農薬散布回数にカウントされない)
- プレオ、マッチ、ネオニコチノイド系薬剤などと混用すると効果的



スワルスキーと併用できるハダニ類の天敵

「スパイカルEX」 ・ 「スパイカルプラス」

- スワルスキーと同じく定着しながらハダニを防除
- 施設栽培の野菜類などで使用可能
- 放飼後の管理 (使用薬剤など) はスワルスキーに準じる



何かご不明な点がございましたら、お問合わせください。営業本部 03-5203-9350



ナス、ピーマン等の作物にはボトルタイプ

スワルスキー®

放飼の極意

- ・10a当り2本が基本使用量。なるべく全ての株に放飼する。
- ・地面に落ちないように、水平な葉の上にやさしく乗せる。
- ・放飼途中で足りなくならないよう注意する。

果樹や花がない作物には吊り下げタイプ

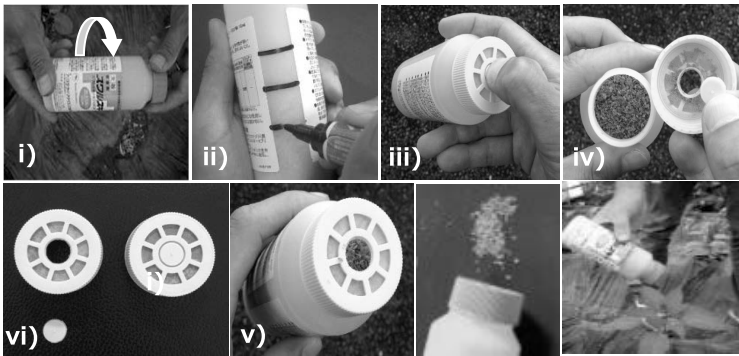
スワルスキー®プラス UM

放飼(設置)の極意

- ・野菜では10a当り200パックを使用。等間隔に設置。
- ・果樹では1樹当り2~4パックを使用。大きい樹や害虫が多い場合はさらに追加する

1. 放飼準備(ボトル)

- スワルスキーカブリダニは容器内に偏在しています。放飼前に容器を10分程、横向きに静置します。放飼直前にゆっくり10回転させて、カブリダニが均一になるようにしてから放飼します。
- 減り具合をチェックできるようにマジック等でボトル側面に4等分程度の目盛り線を書きます。
- 指で蓋の真ん中にある切り込み線の入った小窓部を押します。
- 蓋を空け、小窓片を完全に取り除きます。
- 小窓の開いた蓋をボトルに取り付けて放飼します。



2. 放飼方法(ボトル)

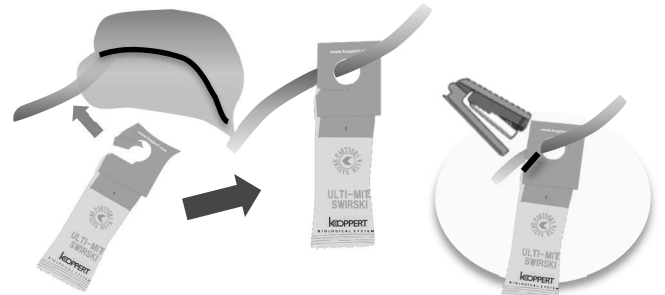
- ☑ 一振りずつ、なるべく全ての株に放飼します。
- ☑ 地面に落ちないように葉の上に乗せてください。
- ☑ 10a当り 2~3本が目安です。
- ☑ 放飼穴(小窓)が小さいため、約350~400回振ることができません。最初は少なめに、余ったら害虫の発生が多い場所に重点的に振ってください。
- ☑ 栽植本数が多い場合は振る力を加減して回数を増やしてください(約500回まで可能)。ボトルを横にして指で叩くようにすると少量の放飼が可能です。

スワルスキー®プラス UM (パック) 外観図



1. 放飼(設置)方法(パック)

- 紙製フックの吊下げ用切り込み部分を手で開きます。
- 作物の枝・葉柄・茎などを吊下げ用切り込み部分から輪の中に入れ、吊下げます。



露地で使う場合等、風雨が強いと予想される時は、右上図のようにホチキス等で補強すると落ちにくくなります。

注) 長時間直射日光が当たるとパック内部が高温・乾燥状態になり、カブリダニの生存率が下がるので葉の陰などに設置してください。

マンゴーでの設置例



放飼/設置後

- ☑ 残ったスワルスキーカブリダニは、歩いて外に出て行きます。ボトル放飼後は蓋とボトルを株元に横向きに、パック設置後の袋は開いた状態で、圃場の邪魔にならないところに置いてください(右図)。
- ☑ スワルスキー放飼後1週間は、薬剤散布をしないでください。



上手な使い方

スワルスキーカブリダニは、アザミウマの若齢幼虫やコナジラミの卵と若齢幼虫を捕食しますが、これらの成虫は食べられません。そこで、体系防除のおススメ！ミカンキロアザミウマやヒラズハナアザミウマが発生する圃場では、必ず粘着板『ホリバー ブルー』(右図)を使いましょう(チャノキアザミウマには『ホリバーイエロー』を使用)。各ライフステージでしっかり防除し、次世代の密度を抑制しましょう！



天敵農薬をはじめとする、弊社製品に関する情報を定期的にお届けします。配信をご希望の方は、弊社ホームページよりお申し込みをお願い申し上げます。

アリスト通信

検索

アリストライフサイエンス株式会社